



# Flower Innovation 2020

【ジャパンフラワープロジェクト】最先端技術を活用し、夏でも多くの国産の花で街に彩りを



**Innovation  
for Everyone  
2020**



## 取組概要

夏でも負けない花作りプロジェクト

### 社会情勢 / 社会課題

日本が生産する花きは、オランダの国際園芸博覧会の品種コンテストで最高得点を獲得する等世界的に高い評価を得ており、近年、輸出額は増加傾向にある。一方、国内では安価な輸入切り花が増加し、国産シェアの奪還と輸出の拡大が喫緊の課題となっている。このため、国産花きの生産・供給体制の強化、輸出や需要拡大のための取り組み推進が必要である

### 長期ビジョン

東京オリンピック・パラリンピック2020をきっかけに、花き生産農家や花き関係業界が力を結集して、日本の高品質な花きを世界へアピールするとともに生産・輸出の拡大を加速させていく

### 東京大会での役割

選手のストレス軽減、疲労回復効果を期待して、会場や選手村等を花で装飾するとともに、世界最高水準とされる日本の花で街や会場を彩り、日本らしさが演出された印象的な大会を実現する

### 3つの手段

#### 1 ソーシャルインパクト

夏場でも日持ちする国産花きの品質の高さを世界へ発信する

#### 2 大会ホスピタリティ

花や緑の視覚的な華やかさに加え、癒やし効果等の心理的側面にも配慮した居心地の良いおもてなしを提供

#### 3 シェアードバリュー

新たに開発した技術を国内他地域へ展開することにより、国内花き産業の振興を図る

### 2020年に向けたコンセプト

Flower Innovation 2020

## ジャパンフラワープロジェクト

最先端技術を活用し、夏でも多くの国産の花で街に彩りを





# ありたい姿と 成果イメージ

夏場における花きの安定生産供給技術や、日持ち性延長技術等の  
日本の世界最高水準の技術による花や緑で街や会場を彩る

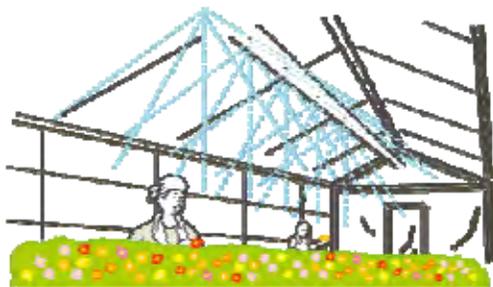
## 技術の概要

日本の優れた花や緑をいっそう多くの人に楽しんで頂くための長期品質保持や安定生産技術

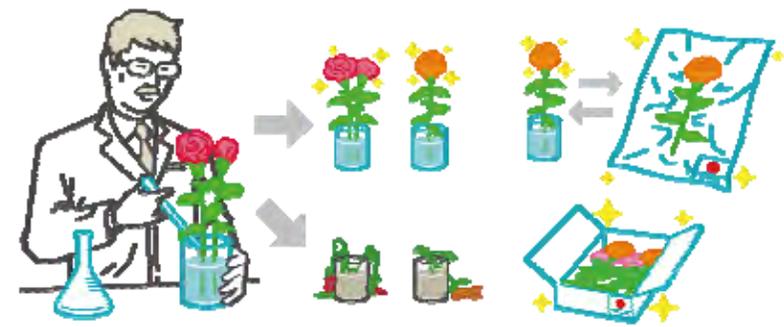
日持ちする品種  
を数多く開発



暑い夏場でも花きを安定して  
生産する技術の開発

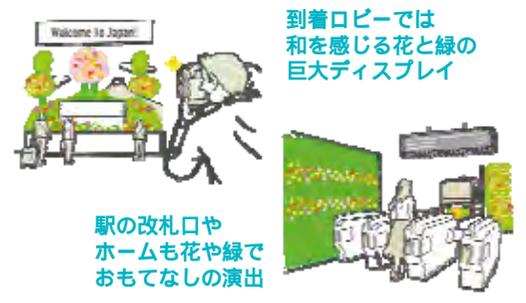


切り花を長持ちさせる品質保持剤等の開発



## 大会期間中の演出例

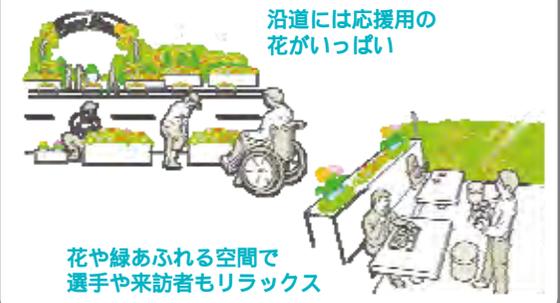
### Scene ① 国際空港



到着ロビーでは  
和を感じる花と緑の  
巨大ディスプレイ

駅の改札口や  
ホームも花や緑で  
おもてなしの演出

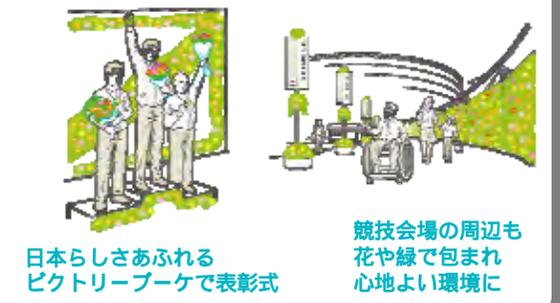
### Scene ② 街の中



沿道には応援用の  
花がいっぱい

花や緑あふれる空間で  
選手や来訪者もリラックス

### Scene ③ 競技会場



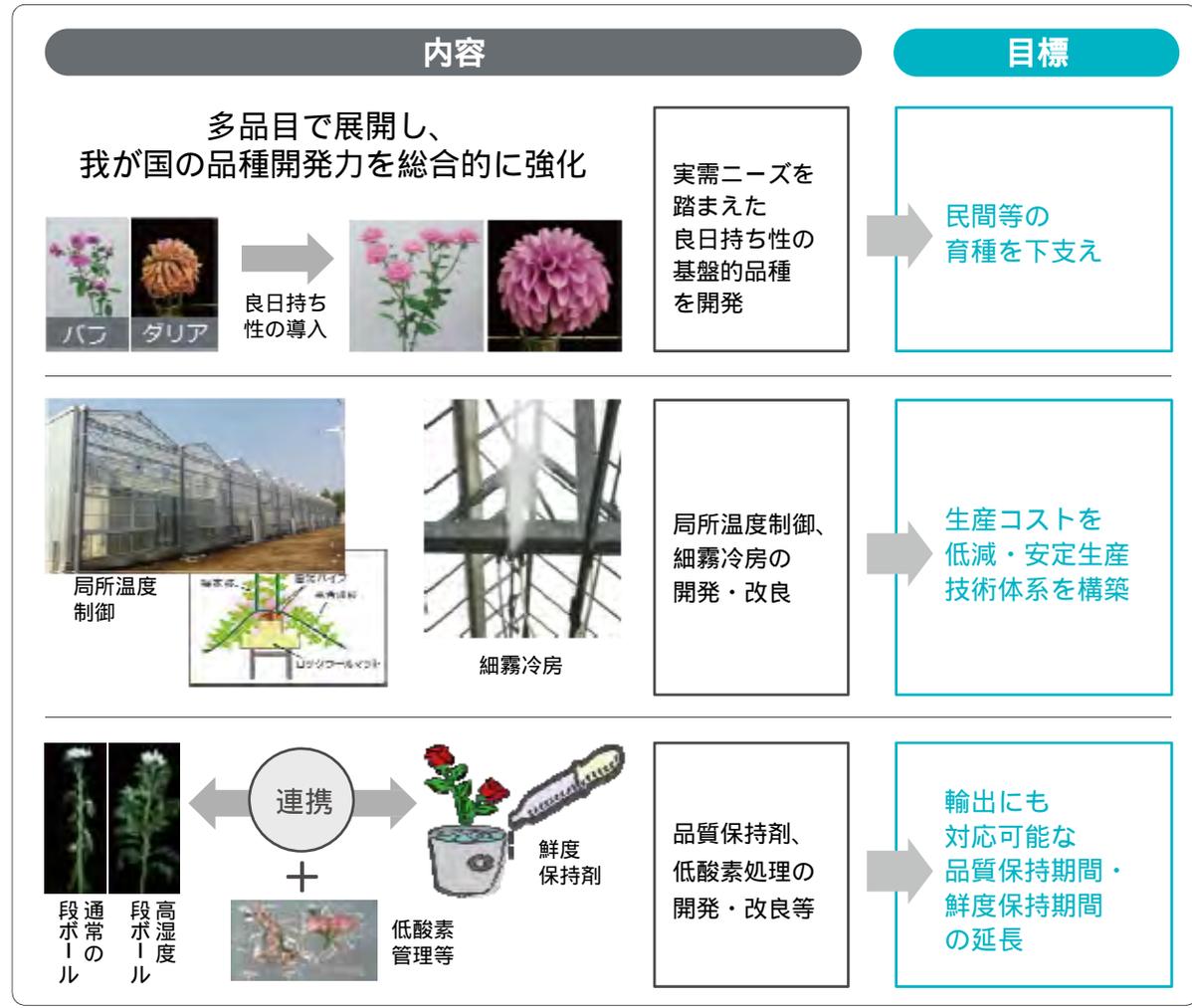
日本らしさあふれる  
ピクトリーブーケで表彰式

競技会場の周辺も  
花や緑で包まれ  
心地よい環境に



# 2020年に向けた取組

日持ち性延長等最先端技術により、夏場の街や会場を花と緑で彩りを与え、癒やし効果等による居心地の良い、おもてなしの空間を提供することで、日本らしさが演出された大会の運営を実現する



画像提供：宮崎空港ビル株式会社



画像提供：フォートラベル株式会社

大会会場・公共空間を鮮やかに演出

選手村の装飾・ビクトリーブーケ等の大会中の鮮度保持



画像提供：フローラル・デコ村松文彦東京ランチ



画像提供：神戸布引ハーブ園



## 実現に向けた 取組と連携先

取組	連携機関	取組内容
<b>研究開発</b>		
基盤的形質を有する花き系統の開発 ・ 良日持ち性等基盤的品種の開発	農研機構花き研究所を 代表機関とするコンソーシアム	日持ち性等に関する優良系統の選抜や選抜された優良形質の固定、品種化を図り、複数品種での中間母体に育成
夏場における安定生産技術の開発 ・ 局所温度制御、細霧冷房等の開発・改良	農研機構花き研究所を 代表機関とするコンソーシアム	局所加温技術や細霧冷房等の技術を活用し、夏場における花き生産施設における低コスト・安定生産技術の開発及び開発した技術のマニュアル化による生産現場への早期普及・実用化の検討
鮮度保持期間延長技術の開発 ・ 品質保持剤、低酸素処理等の開発・改良	農研機構花き研究所を 代表機関とするコンソーシアム	低温管理、低酸素処理等の環境制御を利用した鮮度保持技術の開発及び品質保持剤との併用による物流段階での鮮度保持技術の開発